

国立長寿医療研究センターに国内外最大規模の 「もの忘れセンター」外来部門がオープンしました

認知症患者は予想を上回る速度で増加し、既に300万人を超えていると考えられています。このため診断、治療から、ケアまで一貫した機能をもつ「認知症疾患センター」の整備が全国で急がれていますが、これらのモデルや目標となる施設は、全国にごく少数しかなく、広く公開されているところはありません。国立長寿医療研究センターは、認知症の原因究明・治療法の開発などの基礎研究と並行して、現状でできるすべての叡智を、認知症診療に生かし、「一日でも長く、穏やかに在宅で暮らす」ことをかかげています。

これを多職種協働で有機的に実現するための舞台として、2010年9月7日に国内最大、海外でも類をみない規模の「もの忘れセンター」がオープンしました。患者さんへのサービスを一層充実し、ご家族への説明や理解を助ける「家族教室」も新しい校舎に相応しい充実したものになるよう職員一同頑張る所存です。

引き続き、皆様のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成22年9月吉日

国立長寿医療研究センター・もの忘れセンター長
鳥羽 研二



もの忘れセンターの理念

一日でも長く在宅で穏やかに暮らすため
認知症に対する患者・家族の希望を叶える

目標：認知症疾患センターのモデルとなります
活動内容：

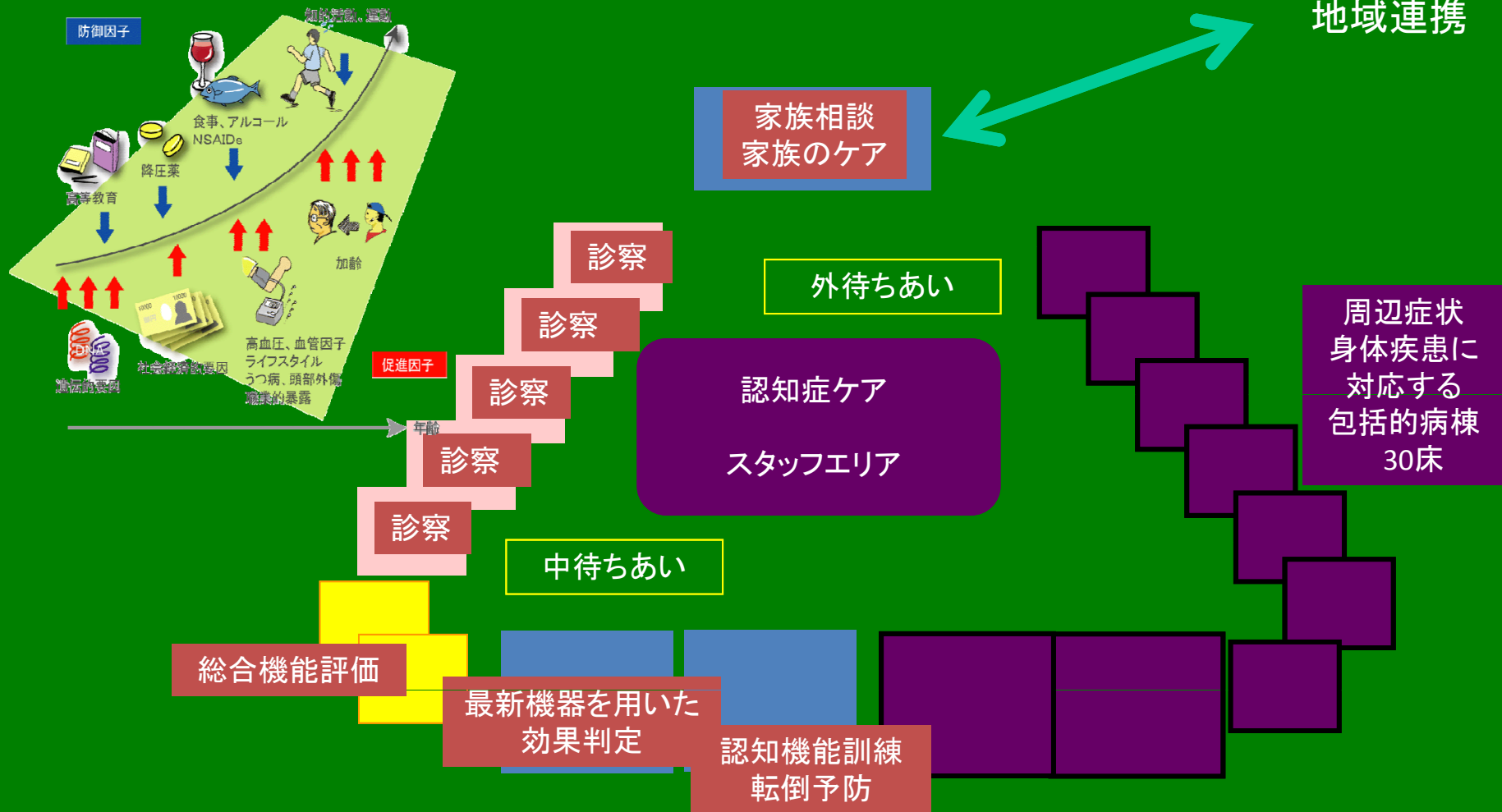
- 1) 認知機能の維持
- 2) 周辺症状の速やかな改善
- 3) 生活機能の改善
- 4) 老年症候群（転倒、誤嚥、失禁）などをおこさない
- 5) 介護負担感の軽減
- 6) 身近な場所での認知症に対する介護サービス利用の情報提供
- 7) 緊急時の入院対応

もの忘れセンター

The Center for Comprehensive Care and Research on Memory Disorders.
(Comprehensive Careとは懐に包み込むように、相手の立場に立って医療、ケアを行うことです)

集団家族指導

地域連携



もの忘れセンターでは、新しいチーム治療を行います！

診断に長けた神経内科医、放射線科医、
周辺症状の薬物療法に長ずる精神科医、
手術の適応に長けた脳神経外科医、
これらにバランスよく通曉しかつ身体疾患にも
対応できる老年科医がコーディネーターとなり、
専門家と地域一般医家の情報を交換して
患者サービスに切れ目をなくします。

治療チームには、コメディカルだけでなく、
患者・家族も加わります。
これによって難しい医学用語ではなく
「日常生活上どのような言葉で苦勞として
語られているか」を理解して、ケアをすすめます。

もの忘れセンターの診療について

外来診療日：月～金の午前午後

全予約制：電話または外来窓口で予約をおとり下さい。

**国立長寿医療研究センター（0562-46-2547）の予約センター
までお願いします。 ＊平日13：00～16：00**

担当医：院長（老年科）、副院長（神経内科）

もの忘れセンター外来部長（老年科）

老年科部長、神経内科部長、放射線科部長

精神科医長、老年科医長、神経内科医長、脳神経外科医長

老年科医師（2名）、神経内科医師（2名）、整形外科医師

スタッフ：看護師、臨床心理士3名、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー

特殊検査機器：

MRI（1.5T 1台）、MRI（3T 1台）、SPECT、FDG PET、

Amyloid imaging、NIRS（光トポグラフィー）、磁気刺激装置

重心動揺計、体組成計

家族相談室 2部屋、 集団家族教室 2回（月）

（要予約；センター受付）

入院（平成23年度～） 周辺症状／身体合併症対応病棟 30床